令和７年度　司書講習　講義概要(シラバス)

生 涯 学 習 概 論　　**講師　西村 美東士**（にしむら みとし）

講義概要・授業計画

私の研究成果については、ホームページ（http://mito3.jp）で公開しているので、講義中、どんなことでも、質問をしてほしい。

図書館は、主として市民の個人学習のための生涯学習の一拠点である。しかし、最近の図書館計画を見ると、SDGs やまちづくりなど、地域や社会を重視した政策が目立つようになっている。図書館は、いったいどのようにしたら、その面で貢献できるのだろうか。本講義では、生涯学習推進の視点から、これを追求したい。

図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議（令和６年 10 月１日設置）では、学校・家庭・地域の連携による社会全体を通じた読書環境の充実、読書バリアフリー法の制定や ICT の急速な発展等の社会変化を踏まえた、図書館及び学校図書館の運営やサービス等についての検討が行われている。われわれは、このように、社会的な視点から図書館について研究を深める必要がある。

本講義での具体的な項目としては、次のような問題意識に基づいて検討を進める。その方法としては、自己内対話で、受講仲間とのワークで、そして講師との双方向の対話で明らかにしていく。

（１）生涯学習・生涯教育とは何か。人々はどのように何を学んでいるか。
（２）家庭教育・学校教育によって、人はどのように傷つけられているか。教育はどうすればよいのか。
（３）今日の生涯学習振興施策には、何が欠けているか。
（４）今日の時代に、教育・社会教育は何ができるのか。
（５）社会教育行政はどのように運営されるべきか。
（６）自治体の行財政制度と教育関連法規は、人々の生涯学習活動をどう援助しているのか。（市立図書館基本計画の事例を含む）
（７）多様な社会教育の内容・方法・形態の実態と公共的意義は何か。
（８）学習情報の提供と学習相談のポイントは何か。
（９）社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携はどうあればよいのか。
（１０）図書館は、ICT や多様なメディアをどのように取り入れればよいか。
（１１）図書館が市民にとって「居場所」と感じられるようにするためにはどうすればよいか。
（１２）図書館司書の職業能力開発はどのように進めればよいのか。（クドバス＝図書館職員に求められる必要能力を構造化する）

アドバイス

講義を聴いたり、ワークショップをしたりしながら、各テーマに基づくワークシートを作成する。そのことにより、自己内対話、対他者対話による主体的で深い学びを目指してほしい。あなたの意見や疑問は、双方向システムによって、講義で紹介し、コメントする。

図 書 館 概 論

講師　赤山（あかやま）　みほ

講義概要・授業計画

図書館とは何かについて概説し、これからの図書館のあり方を考える。具体的には、図書館の機能、現状、社会的意義、図書館員の役割、館種別図書館と利用者、図書館の課題と展望等について学ぶ。

学修目標としては、図書館に関する基本的な知識を習得し、社会における図書館の位置づけを理解し、今後の図書館のあり方を展望するための考え方を身につけることを目指す。

１．図書館とは何か
２．図書館の構成要素と機能
３．図書館の現状と動向
４．図書館の社会的意義
５．図書館の理念
６．地域社会と図書館
７．図書館員の役割
８．公立図書館の役割と利用者のニーズ
９．大学図書館の役割と利用者のニーズ
１０．学校図書館の役割と利用者のニーズ
１１．国立図書館の役割と利用者のニーズ
１２．出版と図書館
１３．図書館サービスおよび図書館協力
１４．図書館の課題と展望
１５．まとめ

アドバイス

身近な図書館の各種サービス、図書館に関する新聞記事等に関心を持ち、図書館の理念等を参照しながら自分の意見を検討できるよう、日頃から情報収集をしましょう。授業内容については、配付資料に掲載の参考書を参照するなどして、学修を深めるとよりよいと思います。

図 書 館 制 度・経 営 論

講師　田中（たなか）　伸樹（のぶき）

講義概要・授業計画

図書館法および図書館関連法規の解説を通じて、主に公立図書館の法的基盤や様々な図書館活動の法的根拠を理解する。
また、職員・施設・予算など、図書館経営に必要な各要素にまつわる知識を習得し、これらに関する諸課題について意識を深める。

１．図書館の制度と経営について
２．図書館法体系
３．図書館法解説
４．他館種に関する法令
５．図書館サービスに関する法令
６．図書館政策
７．公立図書館の経営
８．組織と職員
９．図書館の物的資源
１０．図書館財政
１１．図書館経営の計画と評価
１２．管理形態の多様化

参考書

授業内で適宜紹介する。なお、授業内容および構成は、主として以下のテキストに基づいている。
・糸賀雅児、薬袋秀樹 編『図書館制度・経営論（現代図書館情報学シリーズ 2）』（樹村房 2013）
・手嶋孝典 編著『図書館制度・経営論 第２版（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 ５）』（学文社 2017）
・安藤友張 編著『図書館制度・経営論 ライブラリー・マネジメントの現在（講座・図書館情報学 ３）』（ミネルヴァ書房 2013）

アドバイス

制度や経営といった、具体的にイメージするのが難しい内容を扱う科目です。法律の条文や資料の記述をただ暗記するのではなく、他の科目で学ぶ内容や図書館の活動と関連させながら考えを深めてください。

図 書 館 情 報 技 術 論　　講師　田邊（たなべ）　稔（みのる）

講義概要・授業計画

図書館システムの導入・運用や図書館業務支援に必要となる情報技術について講義する。

前半は、最初に図書館を取り巻く情報技術や図書館システムの最新動向について、続いてハードウェアとソフトウェア、ＯＳとミドルウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズムなど、情報技術の基盤となる仕組みについて概説する。

後半は、図書館業務システム、検索サービス、ウェブサービス、セキュリティ、マネジメント等について、実際に講師が携わってきたシステムを紹介しつつ詳説する。さらに、加速度的に進化しつづけている生成 AI（ChatGPT 等）やメタバース等の先端テクノロジーにも言及する。情報サービスプロフェッショナル（INFOPRO）として、これからの図書館員に必要とされる情報技術や IT スキルとは何かにフォーカスする。

以下に基本とする講義内容を示す。

（基本とする講義内容）
（１）コンピュータとネットワークの基礎
（２）情報技術と社会
（３）図書館における情報技術活用の現状
（４）図書館業務システムの仕組み（ホームページによる情報の発信を含む）
（５）データベースの仕組み
（６）検索エンジンの仕組み
（７）電子資料の管理技術
（８）コンピュータシステムの管理（ネットワークセキュリティ、ソフトウェア及びデータ管理を含む）
（９）デジタルアーカイブ
（１０）最新の情報技術と図書館
（１１）まとめと試験

参考書

購入・持参の必要はありません。以下は一部です。

・塩崎亮、今井福司、河島茂生 編著『図書館情報技術論[第 2 版]:図書館を駆動する情報装置（講座・図書館情報学 4)』（ミネルヴァ書房 2022）
・田中均 著『図書館情報技術論・改訂版』（青弓社 2024）
・代々木ゼミナール講師 松尾康徳 著『教養としての＜情報Ｉ＞』（技術評論社 2024）
・ブライアン・カーニハン『教養としてのコンピューターサイエンス講義 第 2 版 今こそ知っておくべき「デジタル世界」の基礎知識』（日経 BP 2022）
・日本図書館情報学会研究委員会 編『メタデータとウェブサービス』（勉誠出版 2016）
・西村泰洋 著『図解まるわかり Web 技術のしくみ』（翔泳社 2021）
・斎藤昌義 著『【図解】コレ 1 枚でわかる最新 IT トレンド［改訂第 5 版］』（技術評論社 2024）

アドバイス

図書館員は「情報のプロ（INFOPRO）」として見られますので、システムライブラリアンでなくても、IT スキルは必須となります。デジタルネイティブ時代にあっては、「文系だから IT はわかりません」とは言っていられません。時々刻々と創出される学術情報やメディアコンテンツの中から、ユーザーが立てた問いやストーリーにマッチした情報を効率的に得るには、最新の情報技術の習得が欠かせません。大学も教養＋実学＋文理融合の時代です。ざっくりでもよいので、情報技術の基本用語の意味や概念を把握しておきましょう。

図書館サービス概論

講師　常世田（とこよだ）　良（りょう）

講義概要・授業計画

図書館の財政や組織、分類や目録、選書や排架、リクエストやレファレンス、コンピュータシステムなど、様々な人的物的資源や業務は全て、利用者のニーズに対応するために存在しています。ニーズの内容は、利用者の自己実現や課題解決のためであったり、リクリエーションであったりと非常に多様です。図書館の個々の要素がいくら優れていても、最終的に高度で良質なサービスが提供されなければ意味はありません。

講習の各授業では、図書館業務や資料について、それぞれの分野を別個に独立させて学習することになりますが、図書館の現場ではそれらの資源や業務などの諸要素は、複雑に絡み合ってサービスや業務を構成しています。図書館における諸要素の有機的な関係が利用者や社会の変化と共にどのように変遷し、現在どのような状況にあり、またどのような理念、機能を生み出したかを理解しましょう。

アドバイス

居住地や勤務地などの図書館で実際に利用者登録をして、興味のない分野の書架についても目を通し、実際に自分自身の課題についてレファレンスの質問をしてください。図書館の対象は森羅万象全てです。世界のあらゆることについて興味をもつようにしてください。

情 報 サ ー ビ ス 論

講師　野村（のむら）　至（たもつ）

講義概要・授業計画

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

第 01 講　情報社会と図書館の情報サービス
第 02 講　図書館における情報サービスの種類
第 03 講　図書館における情報サービス理論的展開
第 04 講　レファレンスサービスの理論と実践
第 05 講　レファレンスサービスの実際
第 06 講　情報検索サービスの理論と方法
第 07 講　各種情報源の特質と利用法（１）
第 08 講　各種情報源の特質と利用法（２）
第 09 講　各種情報源の特質と利用法（３）
第 10 講　各種情報源の評価と解説
第 11 講　各種情報源の組織化
第 12 講　発信型情報サービスの意義と方法
第 13 講　情報サービスに関わる知的財産基礎知識
第 14 講　図書館利用教育と情報リテラシーの育成
第 15 講　試験

参考書

竹之内禎 編著『情報サービス論－第 2 版』（学文社 2024）

アドバイス

本講義では教科書は必要なく、講義の際に資料を配付し、それを使います。積極的に講義にご参加ください。

児 童 サ ー ビ ス 論

講師　片山（かたやま）　ふみ

講義概要・授業計画

本講義では、公共図書館における児童サービス（乳幼児からヤングアダルトのための図書館サービス）について、その意義と役割を理解し、児童図書館員として必要な知識と技術を身につけることを目的とします。

具体的には、乳幼児からヤングアダルトのための図書館サービスについて、発達における読書の役割、業務内容や児童資料について講義します。また、児童と児童資料を結びつける方法について紹介し、その実践力を身につけます。

以下のような項目で構成します。

（１）児童サービスの意義（理念と歴史を含む）
（２）発達と学習における読書の役割
（３）児童資料（絵本）
（４）児童資料（物語と伝承文学、知識の本）
（５）児童サービスの実際（資料の選択と提供、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク等）
（６）乳幼児サービス（ブックスタート等）と資料
（７）ヤングアダルトサービスと資料
（８）学習支援としての児童サービス（図書館活用指導、レファレンスサービス）
（９）多様な子どもの読書に資する資料（アクセシブルな資料、多言語資料等）とサービス
（１０）学校、学校図書館の活動（公立図書館との相違点を含む）
（１１）学校、家庭、地域との連携・協力

参考書

授業はこちらで用意したレジメに沿って進めます。参考書は、授業中に紹介します。

アドバイス

・基本的に講義形式ですすめますが、グループディスカッション、読み聞かせの実践等も予定しています。積極的に参加し、主体的に取り組んでいただければと思います。
・子どもに読書の楽しみを伝えるために、受講者自身も読書に親しみ、読書の幅を広げてもらいたいと考えています。授業までに、少なくとも１冊、おすすめの児童書(絵本含む）を作り、紹介できるようにしておいてください。

情報サービス演習Ⅰ　　講師　伊藤（いとう）　民雄（たみお）　松野（まつの）　南紗恵（みさえ）　今野（いまの）　創祐（そうすけ）

講義概要・授業計画

利用者から寄せられる相談・質問に対して的確に回答する、あるいは利用者が必要とする資料・情報を効率よく入手できるようにするには、回答者自身が所属する図書館のレファレンスコレクションに精通したうえで、コレクション更新等を行う事前準備と、利用者を受け入れる環境作りが求められます。

本科目は、図書館サービスの中核である情報サービス（レファレンスサービス）を、主として冊子体の参考図書やレファレンス質問を利用した演習によって理解し、実践的な技術を習得することを目標とします。

扱う内容は、（１）情報サービスの設計、（２）レファレンスコレクションの整備、（３）レファレンスインタビューの技法と実際、（４）質問に対する検索と回答、（５）発信型情報サービスの実際、（６）情報サービスの評価、等となります。

【伊藤　民雄】

「情報サービス論」で習得した基礎知識を踏まえて、レファレンスインタビューや質問回答を処理していくために要求される基本的な知識と技能について、講義と演習（参考図書の解題と評価、パスファインダー作成など）を行い、また受講生同士による課題の相互評価も行います。図書館サービスの中心であるレファレンスサービスについて、演習課題を解決しながら参考図書の使い方を学び、質問の受付から回答までのプロセスを学修することにより、レファレンスサービスの実践的な技術を習得します。

【松野　南紗枝】

演習課題を通じて、レファレンスブックの使い方やレファレンスインタビューについて学びます。また、パスファインダーの作成にも取り組み、実践的なスキルの習得を目指します。

【今野　創祐】

この授業では、主にレファレンスの基本と紙メディアを利用した情報検索、パスファインダー作りを通じた発信型情報サービスについて学びます。

参考書

特に指定しない。必要に応じて授業内で指示する。但し、授業の内容は下記を参考にしている。

・中西裕、伊藤民雄、青野正太 共著『情報サービス論及び演習－第４版（ライブラリー図書館情報学 6）』（学文社 2024）
・宮沢厚雄 著『検索法キイノート』（樹村房 2018）
・山口真也、千錫烈、望月道浩 編著『情報サービス論 情報と人々をつなぐ図書館員の専門性』（ミネルヴァ書房 2018）

アドバイス

【伊藤　民雄】

レファレンスサービスは、とにかく「習うより慣れよ」です。図書館の参考図書コーナーだけでなく、一般書架で調べ物に役に立ちそうな本を多く見ることをお薦めします。

【松野　南紗枝】

図書館にはどのような資料あるのか知っておくと、レファレンスサービスでとても役立ちます。ぜひお近くの図書館で書架をゆっくり眺め、気になる資料があれば手に取ってみてください。

【今野　創祐】

公共図書館を利用し、参考図書のみならず、一般図書も含めて様々な資料に触れてください。

情 報 サ ー ビ ス 演 習 Ⅱ　　講師　伊藤（いとう）　民雄（たみお）　松野（まつの）　南紗恵（みさえ）　今野（いまの）　創祐（そうすけ）

講義概要・授業計画

図書館の調査能力を飛躍的に向上させるためには、所属する図書館の冊子体コレクションに精通したうえで、オンラインデータベースの導入が不可欠です。また、その性能を最大限に引き出すために、実際の使用法、利点と欠点等の熟知が求められます。

本科目は、図書館サービスの中核である情報サービス（情報検索）とその関連領域に関する知識と技術を、様々なデータベースを活用した情報検索演習を通じて理解し、実践的な検索技能を修得することを目標とします。

扱う内容は、（１）情報サービスの設計、（２）情報検索の技法と実際、（３）質問に対する検索と回答、（４）情報サービスの評価、等です。

【伊藤　民雄】

情報サービスは、参考図書を駆使した従来からの手法に加えて、デジタル化された情報源を使いこなす知識と技法が要求されています。本講義では、コンピュータを使って演習を行います。「情報サービス論」で習得した基礎知識を踏まえて、情報検索の基礎知識、図書内容情報、雑誌記事情報、人物略歴情報、地域情報、インターネットの無料情報源を使った情報検索を行います。

【松野　南紗枝】

インターネット上の情報源や各種データベースを使用して、情報検索に関する演習課題に取り組みます。

【今野　創祐】

この授業では、主にコンピュータを通じて、電子メディアを利用した情報検索について学びます。

参考書

特に指定しない。必要に応じて授業内で指示する。但し、授業の内容は下記を参考にしている。

・中西裕、伊藤民雄、青野正太 共著『情報サービス論及び演習－第４版（ライブラリー図書館情報学 6）』（学文社 2024）
・宮沢厚雄 著『検索法キイノート』（樹村房 2018）
・山口真也、千錫烈、望月道浩 編著『情報サービス論 情報と人々をつなぐ図書館員の専門性』（ミネルヴァ書房 2018）

アドバイス

【伊藤　民雄】

利用者からの質問内容を分析し、回答ツールとして電子メディアを選択したと想定するのが「情報検索演習」です。本科目では、電子メディアに回答ツールが制限されますが、現場では紙メディアを併用しながら回答してもよいのです。難しく考えず、気楽にいきましょう。

【松野　南紗枝】

この科目では、さまざまな種類のデータベースを使用して情報検索に取り組みます。お近くの図書館ではどのようなデータベースが利用できるのか見ておくと、演習課題に取り組む際にイメージしやすくなります。

【今野　創祐】

実際は電子メディアのみならず、紙メディアも併用しレファレンスを行います。公共図書館で利用できるデータベースを意識してください。

図 書 館 情 報 資 源 概 論

講師　坂本（さかもと）　俊（しゅん）

講義概要・授業計画

図書館において情報資源として扱われる資料全般に関して、その種類、特徴についての解説をおこないます。

特に、印刷メディアと電子メディアの違いや、専門資料群として人文科学・社会科学・自然科学など、各学問分野資料の種類と特徴、LL ブックや多言語資料など、読書活動に障がいを抱えている利用者に対する資料群などについて知識を深めていきます。

また、出版物の生産・流通過程、資料選択の基準・管理について把握し、コレクション形成及び情報資源の収集と保存方法について理解していきます。

１．図書館情報資源の概要
２．図書館情報資源の特徴と類型
３．図書館資料の種類（１）印刷資料
４．図書館資料の種類（２）図書
５．図書館資料の種類（３）逐次刊行物・雑誌
６．図書館資料の種類（４）行政資料・灰色文献
７．参考図書の種類と特徴：百科事典・書誌・索引
８．非印刷資料の種類と特徴
９．電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特徴
１０．情報資源の出版・流通
１１．人文・社会分野の情報資源の種類と特徴
１２．科学技術分野の情報資源の種類と特徴
１３．図書館コレクションの形成（１）資料選択・資料収集
１４．図書館コレクションの形成（２）資料選択ツールの利用・評価
１５．まとめと試験

アドバイス

現在の図書館では、印刷メディアや電子メディア、読書活動に障がいを抱えている利用者への支援など、様々な情報資源が収集・提供されております。これら情報資源の特性を十分に理解し、図書館サービスへと活用できるような知識・技術を身につけていきましょう。

情 報 資 源 組 織 論

講師　木戸（きど）　裕（ゆたか）

講義概要・授業計画

世界のグローバル化、社会の情報化が急速に進展するなかで、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。図書館の業務やサービスの遂行にあたり、その基礎となる情報技術についての知識と、それを使いこなす技術の向上は不可欠な要素となっています。

図書館資料ということで申しますと、これまでは印刷資料、非印刷資料、電子資料という分類がされてきました。現在では、こうした従来の図書館資料の形態に「ネットワーク上の情報資源」も加えて、これらすべてを包括する概念として「図書館情報資源」という言い方がされるようになりました。

本講義では、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を中心に、できる限り幅広い視点から具体的に解説いたします。

1 日目
- 開講にあたって（講義全体の概要）　・情報資源組織化の意義と理論
- 書誌コントロールと標準化　・書誌記述法（主要な書誌記述規則）（１）（２）

2 日目
- 主題分析の意義と考え方　・主題分析と索引法（主要な統制語彙）
- 主題分析と分類法（主要な分類法）（１）（２）（３）

3 日目
- 書誌情報の作成、流通、提供（MARC、書誌ユーテリティ、OPAC の管理と運用）
- ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ　・多様な情報資源の組織化（地域資料、行政資料等）
- インターネットの進展と情報資源組織論の新しい潮流　・授業内試験（講義全体の統括）

教科書は、特に指定のものはありません。講義資料をプリントして配付します。

参考書

主な参考書は、以下のとおりです。その他の参考書は、授業時にその都度紹介します。

- 榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝 著『情報資源組織論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3）（第 2 版）（学文社 2019）
- 那須雅熙、蟹瀬智弘 著『情報資源組織論及び演習』（ライブラリー図書館情報学 9）（第 3 版）（学文社 2020）
- 柴田正美、高畑悦子 著『情報資源組織論　三訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 9)（日本図書館協会 2020）
- 田窪直規 編著『三訂 情報資源組織論』（現代図書館情報学シリーズ 9）（樹村房 2020）
- 竹之内禎、山口洋、西田洋平 編著『情報資源組織論』（東海大学出版部 2020）
- 根本彰、岸田和明 編『情報資源の組織化と提供』（シリーズ図書館情報学 2）（東京大学出版会 2013）

アドバイス

図書館は、たくさんの資料を所蔵しています。これらが雑然と館内に置かれていたとしたら、どこにどんな資料があるのかわかりません。それを解消するために、図書館で行われているのが「情報資源の組織化」です。その考え方の基本と応用について、できるだけわかりやすく説明します。皆さんと一緒に、インターネット検索などもしながら、楽しく学びたいと思います。

情 報 資 源 組 織 演 習（記述）－Aクラス－　　講師　野口（のぐち）　康人（やすひと）

講義概要・授業計画

図書館で扱う情報資源は、従来からある図書に加え、視聴覚資料やオンライン情報など、その種類の範囲を広げています。また、扱う量も膨大となってきており、これらの情報資源を利用者に効率よく、かつ円滑に提供していく必要があります。

本科目では、利用者が目的の資料をストレスなく検索し、利活用できるよう、情報資源に関する情報を整理整頓した状態で蓄積していく方法、つまり記述目録法による書誌データの作成方法について学びます。

本科目においては、『日本目録規則（NCR）』（教科書およびツールで示される内容）を使用し、目録や標目の作成方法について演習を通して実践的に学びます。授業の前半では、ツールである NCR の 1987 年版を使用し、伝統的なカード目録の作成方法について学修します。授業の後半では、教科書の抜粋を使用し、NCR の 2018 年版に則った目録データの作成方法について学修します。さらに、目録情報をいかにデジタル化し、電子的にやりとりするかについても学びます。

本科目と同一の名称をもつ「情報資源組織演習（主題）」では、分類法ならびに件名法による主題組織の技法を修得する演習を行うため、本科目の学修内容とは異なり、内容的には独立しています。

授業計画は以下のとおりです

第 01 回　イントロダクション／書誌コントロール
第 02 回　目録作業の効率化
第 03 回　目録規則
第 04 回　日本目録規則（NCR1987）
第 05 回　目録演習 1
第 06 回　シリーズ／注記
第 07 回　目録演習 2
第 08 回　アクセス・ポイント（タイトル標目）
第 09 回　アクセス・ポイント（著者標目）
第 10 回　FRBR
第 11 回　RDA、NCR2018
第 12 回　デジタル化の潮流　MARC、メタデータ、OPAC
第 13 回　総合演習問題（NCR2018）
第 14 回　最終試験
第 15 回　最終試験解説

ツール

日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』（日本図書館協会 2006）
※ツールは、大学がご用意します。

アドバイス

情報資源組織論の学修を前提としますが、演習に必要な箇所は改めて説明しながら授業を進行しますので、どうぞご安心して受講ください。また、演習課題はクラスの状況に応じて進めていきます。焦る必要はありませんので、自分のペースで取り組んでください。

情 報 資 源 組 織 演 習（記述）－Ｂクラス－　　講師　藤森（ふじもり）　聡美（さとみ）

講義概要・授業計画

情報資源と総称されるものは、図書・逐次刊行物などをはじめ多種多様であり、それは紙媒体であったり、ネット上に存在していたりと様々な様相を呈し、それぞれに特性があります。

この授業では、図書館で行われている、種別ごとの分類規則に沿った情報資源の目録作成法を習得するため、『日本目録規則（NCR）』のひととおりの概略の把握を目指します。今後、OJT の機会を得た場合は、そこで専門性を高めていけるように、そのための素地づくりを今ここで培っておくというイメージで、取り組んでみましょう。

現在、既に図書館業務に就いている場合は、その専門性にアカデミックな裏付けを加味することで、より発展的なスキルを養えるよう、そして、携わっている領域以外についても視野を拡げられるよう、取り組んでみましょう。

情報資源組織業務について実践的な能力を培うことを目指すこの授業は、「情報資源組織演習」のうちの『記述』であり、記述目録法による書誌データの作成について、学んでいきます。

（「情報資源組織演習」のうちの『主題』のほうは、分類法ならびに件名法による主題組織の技法を修得するもので、この授業ではない別の授業で学ぶことになっています）。

（１）目録作成のオリエンテーション
（２）日本目録規則 NCR 2018　（NCR 1987）
（３）図書のタイトル、責任表示
（４）図書の版表示、出版表示等
（５）図書のシリーズ表示、キャリアに関する情報
（６）図書の体現形の識別子、注記
（７）逐次刊行物と各種資料
（８）著作・表現形の記録
（９）個人・団体・家族の記録
（１０）アクセス・ポイント、関連の記録
（１１）記録フォーマット、メタデータ
（１２）目録作成の実際： 例題、演習問題
（１３）目録作成の実際： 演習問題
（１４）最終試験
（１５）最終試験解説

ツール

日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』（日本図書館協会 2006）
※ツールは、大学がご用意します。

アドバイス

学びの対象である目録規則 NCR は、あらゆる情報資源を網羅できるよう、規則が重層的に展開していくため、その量の多さに驚くことと思いますが、まずは基本の規則を押さえていきましょう。受講後には、ご自身が新たな地平に立っていることに気づくはずです。

情 報 資 源 組 織 演 習（主題）－Ａクラス－　　講師　石井（いしい）　大輔（だいすけ）

講義概要・授業計画

演習を通じて、主題組織の技術を習得します。とくに分類作業では、主題組織の理論の復習も兼ねて、分類規程や補助表など、『日本十進分類法(新訂 10 版)』(NDC10)の使い方についてのひととおりの解説を行った上で演習を行います。

演習では、第一に主題を分析し、そして取り出された主題に対して NDC の詳細な分類記号に翻訳します。NDC は 2014 年 12 月に新訂 10 版となりました。このため、以前の NDC 9 からの変更点についても解説します。

また、分類作業とともに、『基本件名標目表（BSH）』による件名作業の関連についても解説します。

ツール

以下については、大学から貸出があります。ご自身のものを使用しても構いません。

・日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂 10 版』(日本図書館協会 2014)

・日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第 4 版』(日本図書館協会 1999)

アドバイス

情報資源組織論で得た知識や理論を各自で復習しておくと、スムーズに演習に入ることができると思います。演習は集中力が必要ですし、体力的にもたいへんですが、楽しみながら学びましょう。

情 報 資 源 組 織 演 習（主題）－Ｂクラス－

講師　土屋（つちや）　深優（みゆ）

講義概要・授業計画

情報資源を主題から分類し、目録を作成する主題目録法について全体的な知識と技術の習得を目指し、演習を行います。
主題を記号で表すためのツールとして『日本十進分類法新訂 10 版』（NDC10）を用い、分類規定、索引や補助表の使い方、改訂前の第 9 版との変更点について解説を行い、演習課題を通して分類作業の技術を習得します。
また、主題を言葉で表す件名目録作成のツールとして『基本件名標目表』（BSH）を用い、件名作業についても解説します。

教科書は指定しません。授業内でプリントを配付します。

ツール

授業内で使用する以下のツールについては、大学から貸出があります。また、ご自身のものを使用いただいても構いません。

・日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法（新訂 10 版）』（日本図書館協会 2014）
・日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表　第 4 版』（日本図書館協会 1999）

アドバイス

情報資源組織論で学んだ内容を復習しておくと、演習と合わせて深い理解を得られると思います。情報資源組織演習は、地図（ツール）を携えて、宝物（適切な分類記号や件名）を探しに行くような面白さがあります。好奇心をもって、楽しみながら学んでいただけると幸いです。

図 書 館 情 報 資 源 特 論　　講師　木戸（きど）　裕（ゆたか）

講義概要・授業計画

世界のグローバル化、社会の情報化が急速に進展するなかで、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。図書館の業務やサービスにおいても、その基礎となる情報技術の知識や技術の向上が不可欠となっています。

図書館資料ということでみますと、これまでは印刷資料、非印刷資料、電子資料という分類がされてきました。現在では、従来の図書館資料の形態に「ネットワーク上の情報資源」も加えて、これらを包括する概念として「図書館情報資源」という言い方がされるようになりました。この講義では、こうした図書館情報資源をどのように活用するのかを中心に学んでまいります。

講義は、全体として大きく前半部と後半部の二部に分かれます。前半部の講義では、図書館情報資源の発達と歴史、種類・構造と図書館サービス、電子環境下における図書館情報資源、図書館業務と図書館情報資源などについて、できる限り事例に即しながら学習します。後半部の講義では、学問分野としての人文科学、社会科学、自然科学の各分野における図書館情報資源の特性、生産・流通の過程、アクセスと利用等について、実際例とともに見ていきます。

全体を通して、単なる知識の断片的な紹介ではなく、図書館情報資源の背景にある構造を把握することに努めたいと思っています。

第１回：図書館情報資源の発達と歴史
第２回：図書館情報資源の種類・構造と図書館サービス
第３回：電子環境下における図書館情報資源
第４回：図書館業務と図書館情報資源
第５回：人文科学分野の図書館情報資源
第６回：社会科学分野の図書館情報資源
第７回：自然科学分野の図書館情報資源
第８回：授業内試験（講義全般の総括）

講義資料をプリントして配付します。

参考書

主な参考書は、以下のとおりです。その他の参考書は、授業時にその都度紹介します。

・原田智子 編著 『三訂 情報サービス演習』（樹村房 2021）
・長澤雅男、石黒祐子 共著『レファレンスブックス 選びかた・使いかた（四訂版）』（日本図書館協会 2020）
・中西裕、伊藤民雄、青野正太 著『情報サービス論及び演習（第３版）』（学文社 2023）

アドバイス

講義では、さまざまなサイトを紹介しますが、実際にご自身でもやってみていただけると身に付くと思います。講義で聞いているときは簡単に見えても、自分で実践してみると、思わぬところで躓きかねません。日頃から情報検索に親しむことが、上達の秘訣だと思います。

図 書 ・図 書 館 史

講師　森（もり）　茜（あかね）

講義概要・授業計画

文字と様々な記録媒体の発明を経て、活版印刷と紙・パルプの発明と進化は、情報を記録し伝搬し保存する技術の結晶として“図書”を生み出し、図書館は読書行為を通じて知識と情報の集積と流布のための中核的機能として、長い間、人類社会の飛躍的な発展に貢献してきた。

然るところ、20 世紀後半に生み出された電子技術は、そのような図書及び図書館のあり様を一変させた。印刷物として出版される“図書”さえも、電子技術の中で生産される。電子技術による情報の記録と読書行為は、人々のコミュニケーションの在り方を大きく変貌させている。人々は日常生活のあらゆる場で、読書行為を行うようになった。

場としての図書館は、今後どのようになって行くのか。図書と図書館の歴史を理解することによって、図書館という機能が、人類社会と文化の発展にどのような意味を持ってきたかについて学ぶ。

１回　オリエンテーション、紙以前の図書及び記録媒体
２回　古代：メソポタミア文明と図書館、アレキサンドリア図書館
３回　中世：修道院図書館、大学の誕生と知識の価値化
４回　近世初期：紙と印刷術のヨーロッパへの伝搬、グーテンベルクの活版印刷
５回　近世中期：印刷術の普及とルターの宗教改革、出版物の変化と読書の変化
６回　近世後期：啓蒙主義と図書の変化、図書館学の萌芽
７回　近代１：近代市民革命と図書館、イギリス産業革命とフランス革命に見る図書館
８回　近代２：アメリカ独立戦争と近代公共図書館の誕生、そして現代の図書館

参考書

参考書は授業の中で紹介します。

アドバイス

図書館は、いつの時代でも社会のあり様と無縁ではいられません。ライブラリアンを志す者は、常に社会のことに関心を持ちましょう。そうすれば、図書館で仕事をすることの意味が見えてきます。そして、たくさんの小説を読みましょう。